

群 教 セ	G02 - 03
	平17.225集

# 社会科における資料活用能力を 育成する指導の工夫

- 身近な経済活動をシミュレーションする学習を通して -

長期研修員 福田 敦

## (研究の概要)

本研究は、身近な経済活動をシミュレーションする学習を行うことによって、資料活用能力を育成しようとするものである。具体的には、気付く過程において、身近な経済活動に関する資料を収集し、資料を取捨選択する能力の育成を図る。思考する過程において、資料の事実を読み取り、社会的事象を分析する能力の育成を図る。表現する過程において、分析した結果を処理するなど資料活用能力を育成するために指導の工夫を行った。

**キーワード** 【社会 - 中 公民 経済 資料活用能力 シミュレーション】

## 主題設定の理由

様々な面で変化が激しい世界に対応して子どもたちが主体的に生きていくためには、「確かな学力」を始めとする「生きる力」を育成することは重要であり、中央教育審議会が提唱しているところである。県教育委員会は教育行政方針で、「確かな学力の向上」を重点とし、基礎・基本の習得の徹底を求め、学校教育の指針で、社会科の重点事項として「資料を活用する能力を高めるための指導方法の工夫」をあげている。

本校生徒の学力面の実態を見ると、標準学力検査における社会科の資料活用の技能・表現の得点率は高くない。これは、日常生活の中で社会的事象に興味・関心をもてずに生活していることや、授業で資料の提示をした際に資料が示す事実を読み取れなかったり、資料が十分に活用できずに問題解決につながらない場面が多くみられたりすることから裏付けられる。今までも資料を活用した授業は行ってきたが、資料活用能力の中でも、収集や選択・読み取りなどのそれぞれの能力の育成を図る授業が主であり、資料活用能力を総合的にとらえた授業は行ってこなかった。その結果、資料活用能力の育成が十分に図れず問題解決につながらなかったのではないかと考えた。

そこで、本研究では、資料活用能力の育成を図るために、身近な現代の経済活動をシミュレーションする学習を取り入れることとした。この学習は、学習指導要領に示された「資料を選択し活用

する学習活動を重視する」ことと「調査などの過程と結果を整理し、発表する活動」に基づき、生徒が身近な社会的事象に関する資料から考えられる社会活動をモデルを使って模擬行動し、社会的事象を多面的・多角的に考察する学習である。

身近な経済活動をシミュレーションするためには、身近にある様々な資料を活用することが有効であると考え。身近な資料を活用することによって、生徒たちは社会的事象への関心が深まり、興味・関心をもって取り組むことができ、社会的事象を身近にとらえたり、自分の生活と現代の社会活動の関係に気付いたりすることができる。本研究は、シミュレーションをする学習過程の中に、資料の取捨選択・読み取り・分析・作成・表現の五つの資料活用能力の育成を図る場面を取り入れることによって、資料活用の技能・表現の力の向上と、社会科の基礎的・基本的な内容の確実な定着が期待できる。

以上のことから、本研究は、資料活用能力の育成に有効なのではないかと考え、本主題を設定した。

## 研究のねらい

中学校社会科の公民的分野における国民生活と経済の学習において、資料活用能力を育成するために、身近な現代の経済活動をシミュレーションする学習を取り入れたことの有効性を明らかにする。

## 研究の見通し

中学校社会科、公民的分野の学習において、身近な現代の経済活動をシミュレーションする学習を取り入れることによって、資料活用能力の育成が図れるであろう。

- 1 気付く過程において、身近な経済活動に関する資料を収集・選択し、課題解決に適した資料を読み取ることによって、課題を考察するために必要な資料を取捨選択する能力と資料の事実を読み取る能力の育成が図れるであろう。
- 2 思考する過程において、取捨選択し、読み取った、身近な経済活動に関する資料のもつ意味を分析し、社会的事象を考察することによって、資料を通して社会的事象を分析する能力の育成が図れるであろう。
- 3 表現する過程において、社会的事象を分析した結果を処理し、新たな資料を作成し表現することによって、資料活用能力の育成が図れるであろう。

## 研究の内容と方法

中学校社会科の公民的分野において、様々な資料を多面的・多角的に考察し、事実を適切に表現するために、日本の経済活動の学習で身近な経済活動をシミュレーションする学習を取り上げる。

### 1 研究の内容

#### (1) 社会科における資料の分類

社会科の学習において、資料とは社会事象をとらえるために、学習の目的に即して欠かすことのできない必要な材料であり、「社会科の生命(いのち)」とも言えるものである。その資料を形態によって分類した主なものが、表1である。

表1 資料の分類

文書資料	副読本、地図帳、図書雑誌 報告書、古文書など
視聴覚資料	映像資料、音声資料、映画 ビデオ、スライド、写真など
統計資料	統計表、グラフ、年表など
模型資料	地図模型、住居模型など

#### (2) 資料活用能力

社会科において、社会的事象を多面的・多角的に考察し、分析する力を身に付けようとする場合、資料活用能力はその基礎となる能力である。資料活用能力とは、様々な資料から課題の解決に必要な資料を収集、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえ適切に表現する能力である。具体的には以下の五つの能力が考えられる。

課題解決のために、必要な資料を取捨選択する「資料取捨選択能力」

収集した資料から事実をとらえる「資料読み取り能力」

資料のもつ意味を分析・考察する「資料分析能力」

統計からグラフや表にまとめるなど新たな資料を作成する「資料作成能力」

読み取り理解した内容を、自己の考えに基づいて表現する「資料表現能力」

本研究では、資料活用能力を育成するということ、上述の五つの能力を身に付け、社会的事象を具体的に観察し、多面的・多角的に考察し、認識を深める力を育て、学習内容を習得できるようにすることととらえた。そして、この五つの能力を相互に関連させ、課題解決を図り、社会的事象を多面的・多角的に考察する授業を、資料活用能力を総合的にとらえた授業と考えた。

#### (3) シミュレーションする学習における資料活用能力

身近な現代の社会活動をシミュレーションして、社会的事象を多面的・多角的に考察し分析するためには、次の段階を踏んで学習を進める必要がある。

課題は何かを確認する。

課題解決のためには、どのような資料を集めたらよいか検討する。

課題解決に必要な資料を収集する。

収集した資料から課題を考察するための資料を取捨選択する。

取捨選択した資料から課題を的確にとらえるために事実を読み取る。

取捨選択した資料を分析する。

分析した資料から、多面的・多角的に考察しシミュレーションする。

シミュレーションし、課題を解決した後の新たな疑問点を見付ける。

この八つの段階を踏んだ資料活用能力を総合的にとらえた学習を進めることによって、生徒は課題解決に向けた学び方を身に付け、結論の根拠を資料から引き出し、シミュレーションという形で発表できる。

(4) シミュレーションをする学習過程

シミュレーションをする学習とは、生徒が身近な社会的事象に関する資料から考えられる社会活

動をモデルを使って模擬行動し、多面的・多角的に考察する中で、社会的事象を具体的に観察し、学習内容を習得し、身近にとらえたり、自分の生活と現代の社会活動の係りに気付いたりするための学習である。

本研究では、シミュレーションする学習を行うに当たり、学習過程を表2のように3段階設定した。

表2 シミュレーションをする学習過程 ( )は、身に付くことが期待される資料活用能力

過程	主な学習活動	シミュレーションする学習活動
気付く過程	1. 目標と課題を確認する。 2. 企業の定義を知る。(取捨選択、読み取り) 3. 企業を分類する。(取捨選択)	1. シミュレーションの方法を知る。 2. 自分の会社を設立する。(作成)
	4. 企業の目的を調べる。(読み取り) 5. 企業の社会的責任を調べる。(読み取り)	3. 自分の会社の目的を明確にする。(作成) 4. 自分の会社の社会的責任を考える。(作成)
思考する過程	1. 実際の商品の価格を調べる。(取捨選択) 2. 価格の決め方と役割を知る。(分析) 3. 株式会社の仕組みを知る。(読み取り) 4. 利潤を増やす方法を考える。(分析)	1. 自分の会社の商品の価格を設定する。(作成) 2. 自分の会社の商品の価格設定を見直す。(作成) 3. 自分の会社の利潤を増やす方法を考える。(分析)
	表現する過程	1. シミュレーションした会社を相互評価する。(分析) 2. 再検討後の会社内容を相互評価する。(分析) 3. 課題解決のためにワークシートを使って学習内容をまとめる。

2 研究の方法

研究の見通しに基づき、以下の計画で授業実践を行い検証する。

(1) 授業実践計画及び検証計画

対象	大泉町立西中学校3年2組(27名)	単元名	わたしたちの暮らしと経済
実施期間	平成17年10月25日～11月22日(6時間)		学習指導要領公民的分野(2)ア
検証項目	検証の観点		検証の方法
見通し1	気付く過程において、身近な経済活動をシミュレーションするために、企業について調べるための資料を収集・選択し、課題解決に適した資料を読み取る活動を行ったことは、企業の目的と責任を考察するために必要な資料を取捨選択する能力と資料の事実を読み取る能力の育成を図ることに有効であったか。		・ワークシート ・観察 ・事後調査
見通し2	思考する過程において、取捨選択し、読み取った、身近な経済活動に関する資料から、商品の価格の決め方を考察するために、資料を分析する活動を行ったことは、私企業の経済活動をシミュレーションするための資料分析能力の育成を図ることに有効であったか。		・ワークシート ・観察 ・事後調査
見通し3	表現する過程において、分析した結果を処理し、身近な経済活動を多面的・多角的に考察した結果を活用して、シミュレーションする学習を行ったことは、資料活用能力の育成を図ることに有効であったか。		・ワークシート ・観察 ・事後調査

## 研究の展開

### 1 小単元の考察と目標、評価規準

小単元名	2 市場経済と価格 <学習指導要領公民的分野(2)ア>
小単元の考察	<p>本小単元は、中学校学習指導要領社会科公民的分野 2 内容(2)アを受けて設定したもので、身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解させるとともに、価格の働きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させることが目標になっている。</p> <p>そのためには、日本の市場経済の仕組みや経済用語を理解し、消費者として生きていくための基礎的な知識を理解させる必要がある。本小単元では、日常の経済生活に関する事象にかかわる資料を活用して事実を読み取ったり、シミュレーションしたりして、経済が身近なものであることを実感させ、経済について興味・関心をもって学習に取り組む姿勢を育成する。</p> <p>このことは、公民的分野の目標(2)「国民の生活の向上と経済活動とのかかわりについて、個人と社会とのかかわりを中心に理解を深める。」に関連する。また、社会的事象を、多面的・多角的に考察し、直接的な活動を通して社会的事象をとらえ、認識を深めた上で資料活用能力の育成が図られることから(4)「現代の社会的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえ、適切に表現する能力と態度を育てる。」を達成するためにも有意義であると考え、本単元を設定した。</p>
学習目標	<p>様々な資料をもとに、市場経済の基本的な考え方について、身近で具体的な事例を通して理解し、商品の価格の決めり方や価格がシグナルの役割をしていることを理解し、経済についての関心を深める。</p>

【小単元の評価規準及び学習活動における具体的評価規準】				
	ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断	ウ 資料活用の技能・表現	エ 社会的事象についての知識・理解
小単元の評価規準	個人や企業の経済活動に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、経済活動について考えようとしている	社会における企業の役割と社会的責任について、多面的・多角的に考察し、個人や企業の経済活動の在り方について様々な立場から公正に判断している。	個人と企業の経済活動に関する様々な資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに追究し、考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。	経済活動の意義、市場経済の基本的な考え方、生産の仕組みのあらましについて理解し、その知識を身に付けている。
学習活動における具体的な評価規準	商品の広告調査や小売店の聞き取り調査など、身近な経済活動の調査に、関心をもって取り組み、消費者としての経済活動へのかかわり方や生産・流通に関する諸問題を意欲的に追究できる。 企業の経済活動をシミュレーションすることで、今日の経済活動や現実の経済に対し関心を持ち、個人や企業の経済活動について考えようとしている。	企業の経済活動をシミュレーションすることで、企業が市場において公正な経済活動を行っていることと消費者や株主、従業員の利益を増進させる役割があることを、多面的・多角的に考察している。 具体的で身近な事例から学習を進展させ、社会とのかかわりについて客観的にとらえ直し、経済についての見方や考え方ができるようになる。	企業の経済活動をシミュレーションするために、様々な情報手段を活用して収集した個人の消費生活や企業の生産活動などに関する資料を、様々な情報手段を活用して収集している。 経済活動の意義や市場経済の基本的な考え方などについての資料を、適切に選択し活用している。	経済活動の意義が人間の生活の維持・向上にあり経済は生活のための手段にほかならないことを理解し、その知識を身に付けている。 企業の経済活動をシミュレーションすることで、市場経済において、企業や個人は価格を考慮しつつ、何をどれだけ生産・消費するかを選択していること、価格には人的・物的資源を効率よく配分する役割があることなどを理解し、その知識を身に付けている。

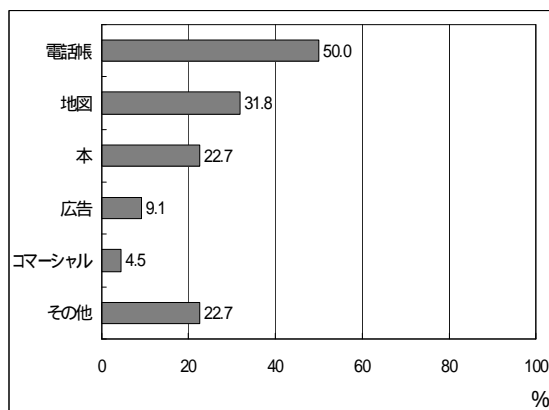
### 2 指導と評価の計画 ( 省略、資料編参照 )

## 研究の結果と考察

- 1 気付く過程において、身近な経済活動をシミュレーションするために、企業について調べるための資料を収集・選択し、課題解決に適した資料を読み取る活動を行ったことは、企業の目的と責任を考察するために必要な資料を取捨選択する能力と資料の事実を読み取る能力の育成を図ることに有効であったか

気付く過程では、「企業とは何か」について考えたが、企業について調べるためには、どのような資料を活用したらよいか尋ねた結果、図1のようになった。

図1 活用資料の回答(複数回答)



この結果から、企業が利潤を増やすために力を入れていて、簡単に手に入れることができる資料で、今までの調べ学習で使ったことのない資料を選択・活用するという観点から、生徒の回答では9.1%、4.5%の回答率ではあったが、身近な資料である新聞の折り込み広告とテレビコマーシャルを活用することとした。

まず、生徒が自宅から持参した新聞の折り込み広告を参照したり、テレビで日常放送されているコマーシャルを想起したりして、身近な企業をワークシートに記入させた。3分間という限られた時間ながら、すべての生徒がワークシートに企業名を記入することができた。

ワークシートには、33社の企業名を記入した生徒を筆頭に、平均12.5社の企業名を記入することができるなど、生徒たちは資料を読み取り、身近なところに多くの企業が存在する事実をとらえることができた。また、生徒の中には、資料の読み取りをする中で、会社の形態として、株式会社や有限会社など、私企業の中に様々な形態が存在す

ることを読み取った生徒もいた。

次に、資料取捨選択能力を育成するために、収集した資料から企業の分類を行った。まず、分類の基準について生徒に尋ねたところ、商品を作っているか販売しているか、利潤はいくらか、敷地の広さはどれくらいか、販売している商品の種類は何か、社員の人数は何人が、会社のある地域はどこか、社員の平均年齢は何歳か、社員の平均年収はいくらか、外資系かどうかなどの意見が出された。

この意見を基に、様々な企業の分類基準の理解をさらに深めるために教師が、公企業と私企業の割合を示したグラフの他、資本金別の企業割合、産業別企業の割合、従業員数別企業の割合、個人企業と会社企業の割合、株式会社と有限会社の割合を示したグラフを提示し説明を加えた。

その後、公企業と私企業の定義を理解させ、生徒がワークシートに記入した企業と教師が用意した身近な企業を、公企業と私企業に分類し、他に考えられる公企業の名前をワークシートに記入し、理解を深めた。公企業と私企業の定義が理解できたところで、公企業と私企業の目的の違いについて考察させたところ、43%の生徒は、利潤を目的にしているかどうかが違うということに気付くことができた。そこで、目的の違いを全員に理解させるために、本校に隣接している三洋電機と交番・消防署を例にとって、私企業は利潤を追求することが一番の目的であるが、公企業は利潤を追求しないことを説明し確認させた。

企業の目的が理解できたところで、次に社会的責任を理解するために、収集した資料から企業の社会的責任を考察するのにふさわしい折り込み広告を選択させたところ、86%の生徒が適切な折り込み広告を取捨選択することができた。適切な広告が探せない生徒には、商品やサービスを売るための広告を探すよう助言した。

企業の社会的責任を考察させる際、企業の折り込み広告の内容と、ふだんの自分の生活を重ねて考えることも重要であることを助言した上で考察させたところ、多くの資料から適切な資料を探し出し、81%の生徒が表3のように企業の社会的責任を読み取ることができた。読み取りが不十分な生徒には、折り込み広告の企業が人々の暮らしのために何を売って役に立っているのかを考えさせることによって社会的責任についての理解を図ることができるようにした。

表3 折り込み広告の読み取り結果

スーパー	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全で新鮮な商品を提供</li> <li>鮮度と衛生管理に十分配慮し、生活がより向上するようにする</li> <li>おいしい食材を提供</li> </ul>
ホームセンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>良いサービスをすべての人に提供</li> <li>暮らしを便利にする</li> <li>暮らしに役立つ商品を販売</li> <li>日常生活に必要な商品を販売</li> <li>安全で快適な生活が送れるようにする</li> <li>仕事に役立つ商品を販売</li> </ul>
ドラッグストア	<ul style="list-style-type: none"> <li>暮らしに役立つ商品を安く販売</li> <li>健康になるための薬を販売</li> <li>心も体も健康にする</li> <li>薬だけでなく生活用品も販売</li> </ul>
洋服店	<ul style="list-style-type: none"> <li>季節にあった洋服を販売</li> <li>安全で快適な生活を送るために、素材にこだわった洋服を安く提供</li> <li>良い品質の洋服を販売</li> <li>流行している洋服を提供</li> <li>おしゃれな洋服を提供</li> </ul>
レストラン	<ul style="list-style-type: none"> <li>季節にあった安全な料理を提供</li> <li>安心でおいしい料理を提供</li> <li>早くて安い料理を提供</li> </ul>
靴店	<ul style="list-style-type: none"> <li>足の健康を守る</li> <li>おしゃれで歩きやすい靴を提供</li> <li>日常生活で、行動しやすい靴を提供</li> </ul>
スポーツ店	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツをより楽しむための靴や道具を提供</li> <li>スポーツに親しむための道具を提供</li> </ul>

さらに、折り込み広告から、なぜ企業は広告を発行するのかを考えさせたところ、多くのお客さんに来てもらって利潤を増やすため、一般の人にこの店は安いと思わせるためなど、企業が様々な経済活動を行う目的は利潤の追求にあるという事実を読み取ることができた。他にも、どんな商品を扱っているかを一般の人々に知ってもらうため、お店の存在を知ってもらって必要なときに来てもらえるようにするため等の意見も出された。

この資料の読み取りを通して、身近な経済活動をシミュレーションするために自分の会社設立のワークシートを各自で記入した。図2はその例である。このワークシートは、自分の会社を設立するシミュレーションを行うことによって、気付く過程で学習してきた内容である、企業の目的と社会的責任が理解できているかを確認することと、次の過程で学習する商品の価格設定と利潤について理解を深めることを目的として記入したものである。

図2 身近な経済活動をシミュレーションするためのワークシート

**公民プリント 3**

もしも、社長になれるなら、こんな会社を作りたい！

会社名	〇〇スポーツ
住所	邑楽郡大泉町 坂田
目的	利潤、バスケを広める
社会的責任	買ってくれる人に安全で性能の高いものを買ってもらう。 満足してもらえるサービスをする。
生産するものやサービス	バスケ用品(シューズ・ボール・ウェア等) バスケをするときのアドバイスなど
販売方法	店
価格	バッシュ (5000円～20000円) ボール (2000円～10000円?)
価格B	
変更した理由	
客層	バスケをやっている子どもからあと

3年 組 番 社長の氏名

以上のことから、気付く過程において企業の形態や目的、社会的責任を調べるために折り込み広告を収集し、その中から課題解決にふさわしい資料を自ら選ぶ活動を取り入れたことは、資料を取捨選択する能力の育成を図ることに有効であったと考えられる。

2 思考する過程において、取捨選択し、読み取った、身近な経済活動に関する資料から、商品の価格の決めり方を考察するために、資料を分析する活動を行ったことは、私企業の経済活動をシミュレーションするための資料分析能力の育成を図ることに有効であったか

思考する過程では、商品やサービスの価格について考えるために、折り込み広告のほかに生徒自らが、町の中を見たり聞いたりして調査した資料も活用することとした。実際に授業で活用した生徒の調査資料が図3である。この資料は、スーパーマーケットとコンビニエンスストアで商品価格にどのような違いがあるのかを比較した内容と、コンビニエンスストアにおけるアルバイトの時給は時間帯によってどのような違いがあるのかという内容を示したものである。

図3 価格の実態調査資料

公民プリント 11		
コンビニ VS スーパー 価格対決!		
商品名	コンビニ価格 (セブン・イブイ)	スーパー価格 (ジャスコ)
牛乳	239 円	228 円
チョコレート	120 円	98 円
緑茶	125 円	98 円
カップラーメン	150 円	90 円
カップ焼きそば	150 円	99 円

コンビニの時間帯別アルバイト代比較	
時間帯	時給
8:00 ~ 22:00	700 ~ 円
22:00 ~ 6:00	1000 ~ 円

3年 組 番 氏名

この調査活動は、資料取捨選択能力の育成を図るためのものである。この活動を通して、多くの生徒が、資料収集を行う際に、商品やサービスの価格を調べるという課題を解決するにふさわしい資料を選択して収集できたことは、資料取捨選択能力が身に付きつつあることを示しているものと思われる。

まず、生徒が収集した資料と教師が準備した資料から、商品やサービスの価格に関する事実の読み取りと分析を行った。最初に、図3の資料からスーパーマーケットの価格の方がコンビニエンスストアの価格より安いという事実をとらえた。そして、その理由を考察したところ、スーパーマーケットは安さが売りだが、コンビニエンスストアは便利さが売りであるという意見が出され、それぞれの社会的責任の違いを明確にすることができた。また、コンビニエンスストアにおける夜間のアルバイトの時給が高い理由では、「夜間は働きたいと思う人が少ないから」、「眠い時間に働いていて大変だから」、「本来人々は休んでいて働かない時間だから」、「夜間は強盗に襲われたりする危険があるから」などの意見が出された。

次に、教師が準備した半額の値引きシールが貼られた刺身のパッケージの写真資料を提示して、スーパーマーケットで閉店間際に生鮮食料品の価格が安くなる理由を考察させたところ、「刺身は新鮮さが売りなのに時間が遅くなると新鮮ではなくなるから」、「翌日では腐ってしまって売り物

にならなくなってしまうから」、「安くしてでも売れば損する額が減るから」などの意見が出された。

そして、生徒たちが昨年スキー教室で泊まったホテルの正月三が日の価格表と、スキー教室を実施した1月の平日の価格表を提示して、正月料金が高いことを読み取らせ、その理由を考察させたところ、「正月は宿泊の予約が殺到するから」、「正月は会社などが休みで利用する人が多いから」、「年明け最初の休日だから」、「ホテルの従業員が正月から働いて大変だから」などの意見が出された。

また、ぶどうの入荷量と価格のグラフを提示し、グラフが示す意味を考察させたところ、入荷量が多い時期は価格が安く、入荷量が少ない時期には価格が高くなっていることをとらえることができ、需給関係から価格が決定されることが理解できた。さらに、キャベツの需給を例にしたSD曲線（需要と供給のグラフ）を作成させたところ、95%の生徒が自分で作ることができ、理解を深めることができた。グラフが作成できなかった生徒には、需要と供給の言葉の意味を説明し理解させながら個別指導を行い理解を促した。

このように様々な価格決定のメカニズムを学習したところで、身近な経済活動をシミュレーションするためのワークシートの価格欄を再検討させたところ、図4のように需要者側の立場を考えた変容が見られた。この生徒は、引きこもりやニート対策のためのカウンセリングルームをシミュレーションした。当初、インターネットや電話を活用したカウンセリングの代金として一日1,000円の設定をしたが、援助を希望する若者が毎日カウンセリングを受けた場合、1か月で約3万円の支出には対応できないと考え、需要者の立場を考え代金を30%引き下げた。

図4 価格設定を再検討したワークシート

価格	1日 1人 約1000円
価格(変更後)	1日 1人 約700円
変更した理由	1ヶ月で3万もかかるのは大変だから...
客層	

このように、今までに学習してきた内容を参考にして、供給側の目的である利潤の追求と需要側

の要求の双方を考えた価格設定ができるようになるなど、ワークシートを再検討することによって、資料作成能力の高まりが見られた。しかし、今までに育成を図ってきた資料取捨選択能力、資料読み取り能力、資料分析能力を活かして、自らのワークシートを見直し、新たな資料を図4のように作成することができた生徒は、43%にとどまった。

これは、今までの社会科の授業の中で思考力や判断力といった自らの考えを表現する力が十分に身に付いていない結果とも受け取ることができる。自らのワークシートの見直しが十分にできなかった生徒に対しては、班内でお互いに意見交換をすることによって、価格設定の合理性を考え、改めて、価格設定を考えさせた。

最後に、企業の経済活動をシミュレーションするために株式会社の仕組みを図示した教科書の資料を読み取り、新聞の株式欄を使って、実在する企業には株式会社が多く存在することを確認した。そして、株式会社が資本を集めるために株式を発行しているということ学習する際に、株式について理解を深めるために、ワークシートを活用して、新聞の株式欄に載っている実在する企業の株価を読み取る活動を取り入れた。株式会社が資本を多く獲得するためには、資本家から期待される企業にならなくてはならないが、資本家の期待が価格に反映されることを理解させるために、実在する企業の株価が上昇した例と下落した例を示し、業績が良ければ上昇し、事業に失敗すると下落するというを確認させた。


以上のことから、思考する過程において、商品の価格の決めり方を的確にとらえるために、身近な資料を読み取り、分析する活動を取り入れたことは、私企業の経済活動をシミュレーションするための資料分析能力の育成を図ることに有効であったと考えられる。

3 表現する過程において、分析した結果を処理し、身近な経済活動を多面的・多角的に考察した結果を活用して、シミュレーションする学習を行ったことは、資料活用能力の育成を図ることに有効であったか

表現する過程では、まず、気付く過程と思考する過程で学習した企業の目的と社会的責任、需給バランスを考えた価格設定、株式会社の仕組みなどを確認した。その後、班ごとにベンチャー企業を起業するシミュレーションを行った。生徒が考

えた企画内容の例が、図5である。このワークシートには、企業名・社員の氏名・本社所在地・社会的責任・商品紹介・価格・販売方法・客層・販売戦略を記入することとした。

図5 ベンチャー企業の概略

公民プリント 24	
ベンチャー企業を起業しよう 6 班	
会社名(株) GEN-GEN	
社員の氏名	
本社所在地 群馬	
基本理念(社会的責任) 安心安全安心と喜びを届けます	
事業内容(生産するものやサービス) 商品名【ポップのロン】	
図や絵 ポップのロン 寒い冬に 履きやすい	商品説明 かいろのくつver. 使い終わった 土に埋めると1ヶ月で 肥料になります。
	価格 1セット (1週間セット(7セット)) 78円 500円
販売方法	
客層	
利潤を増やす方法や戦略など スキー場やデズニープランドなど冬、寒い中 並ばなければならぬPG大手デパート、 意見もせて売ってあげようを賞賛してもら て1週間セットを買ってもらうようにする。	

この企画を考えるには、今までの学習で様々な資料を読み取ったり、分析したりしてきた結果を活かし、自分たちの考えに基づいてワークシートを作成するといった、資料作成能力、資料表現能力が必要になる。このワークシートを記入する際、各自がそれぞれに意見を出し合い、相談しながら作業を進め、ワークシートにまとめることができた。ワークシートの記入に当たって、班の中で相談する際に86%の生徒が自分の考えや意見を出し、ベンチャー企業を起業するシミュレーションにかかわることができた。

図5のワークシート作成後、各班の社長役の生徒が企業概要を発表し、概要に対する質疑応答など意見交換を行い、資料を分析する能力を高めることを目的として1回目の相互評価を行った。評価の観点は、今までに学習してきた各時間の学習目標やポイントとなった項目である表4の6項目である。

表4 相互評価の観点

1. 社会的責任を果たす企業になっているか
2. 需要はあるか
3. 販売方法は適切か
4. 価格は適切か
5. 目的は、はっきりしているか
6. 販売戦略が考えられているか



1. 「社会的責任を果たす企業になっているか」については、第2時で学習した企業の社会的責任の内容を思い出し、社会的責任を果たすとは、人々の暮らしを向上させたり、人々の生活の役に立ったりする企業になっているかどうかを判断基準とした。2. 「需要はあるか」については、第3時で学習した需要と供給の内容を参考に、買いたい、欲しいと思う人がいる商品・サービスになっているかを判断基準とした。3. 「販売方法は適切か」については、通信販売やコンビニエンスストアでの販売、一般の商店での販売など、商品の特性を活かした販売方法を考えているかを判断基準とした。4. 「価格は適切か」については、第3時で学習した需給バランスを考えて、均衡価格と思われるところに価格を設定しているかを判断基準とした。5. 「目的は、はっきりしているか」については、第6時で学習したベンチャー企業を起業するという趣旨に合わせて、今までにない新しい商品を提供して、利潤を追求しようとしているかを判断基準とした。6. 「販売戦略が考えられているか」については、第4時で学習した利潤を増やすために、経費を減らすか、売り上げを増やすための方法が考えられているかを判断基準とした。

各項目とも、評価は生徒一人一人が、各項目4点満点（合計24点満点）で評価し、自分の班以外の生徒が評価した点数の合計点数を10,000倍した金額の資本が調達できることとした。点数が高いほど資本が多く集まり、新商品の開発や商品の改良・開発に資金を充てられるよう、ゲーム的要素も取り入れ、株式投資のシミュレーションを行った。全ての班に対する1回目の相互評価を行った後、その結果を集計し発表を行った。評価結果は表5のとおりである。

表5 企業の内容に対する相互評価結果  
(数字は、資金調達額)

班	1回目	2回目	合計
1	359万	580万	939万
2	287万	450万	737万
3	379万	740万	1,119万
4	376万	650万	1,026万
5	354万	710万	1,064万
6	348万	530万	878万

注：満点は1回目が456万円

2回目が950万円 計1,406万円

集計結果の発表後、資料作成能力をさらに高めるために、評価結果を班ごとに多面的・多角的に考察し、企業の企画内容について、評価の低かった項目を中心に再検討を行った。再検討の内容は、意見交換の中で出た質問事項に対する回答や、価格・販売方法・客層・販売戦略の中で十分吟味されていなかった点の見直しである。図5の班の主な再検討内容は、表6の印のとおりである。

表6 シミュレーションした企業の再検討内容

企業の概要（ は再検討後の内容）	
企業名	株式会社 GEN-GEN（6班）
社会的責任	安価、安全、安心と喜びをやさしくお届けする
商品名	ポッカ ロンのやさしい くつ下
商品説明	・かいるの靴下、使い終わったら、土に埋めると約1か月で肥料に変わる。 ・使い捨てのあとは肥料に変わるので、環境にやさしい。
価格	1セット78円 1週間セット（7セット）500円
販売方法	遊園地、スキー場などの寒い場所
客層	老若男女
戦略	・スキー場やディズニーランドなど、冬、寒い中で 並ばなければならない場所で売る。 ・大手デパートや、観光地でも売って実用性を実感してもらい、1週間セットを買ってもらうようにする。 ディズニーランド限定品を作る 月に1回、ニューカラーを販売する

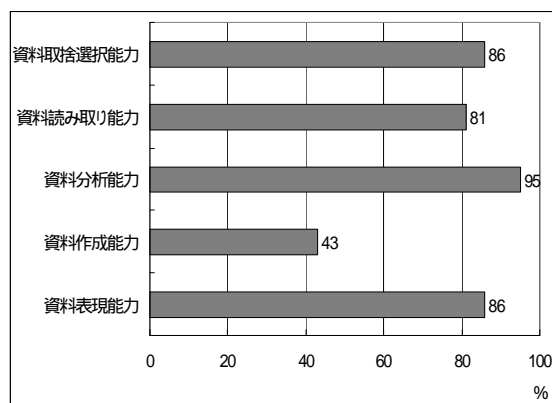
表6に示した班は、意見交換の中で販売方法と客層が示されていないことが他の班から指摘されたのを受けて、販売方法を商品の特性から需要者が寒いと感じる場所で販売することが適切と考えた。客層については、検討した結果、商品の特性上あえて絞らず、老若男女とすることで多くの人に買ってもらえるようにした。さらに戦略として、経費を減らすよりも売り上げを増やすことが得策と考え、その方法としてディズニーランドでしか買えない限定品を作ったり、毎月1回新色を消費者に提供することで話題性を高めて売り上げを増やすことを考えた。

各班の再検討ができたところで、社長役の生徒が再検討後の企業概要を発表した。そして、資料分析能力を高めることを目的として2回目の相互評価を行った。2回目の相互評価は、項目ごとの評価ではなく、前回、指摘された点が改善されているかどうかを全体的に考えて、5点満点で評価

することとした。各班は、獲得した合計点数を、100,000倍した金額の資本が調達できることとし、再度株式投資のシミュレーションを行った。評価結果は表5のとおりである。

以上のことから、表現する過程において、気付く過程、思考する過程で学習してきた内容を基に資料分析をした結果を処理し、身近な経済活動を多面的・多角的に考察した結果をベンチャー企業の起業という形でシミュレーションする活動を取り入れたことが、資料活用能力の育成を図ることに有効であったと考えられる。

図6 資料活用能力が育成された生徒の比率



シミュレーションする学習を行うための3段階の学習過程を通して、資料活用能力の育成が図れたかどうかを、生徒の記入したワークシートの様子などから教師が評価した結果を示したものが、図6である。

この結果から、身近な資料を活用したことが、資料取捨選択能力の育成や資料読み取り能力の育成につながったことが分かる。そして、その二つの能力と資料分析能力を関連させて育成させたことが、95%の生徒の資料分析能力の育成に結び付いたものと思われる。しかし、資料作成能力の育成を図るための自分の会社の商品価格を見直す場面では、思考力や判断力も必要であることがわかった。各班で起業のシミュレーションの相談をする際には、自分の考えや意見を出すことができ、他の能力との関連を図り、資料表現能力を育成することができた。

#### 研究のまとめと今後の課題

研究の結果、次のことが明らかになった。

本研究では、資料活用能力を総合的にとらえ

た授業を行った。これは、課題解決のためにシミュレーションをする際の準備段階において、資料の収集・選択・読み取り・分析・作成といった資料活用能力の育成を図ることと、その結果をまとめの段階で整理し、シミュレーションという形で発表する際の資料の表現能力を高めることに視点を当てた検証授業である。その結果、選択・読み取り・分析などのそれぞれの資料活用能力の育成を図る授業を行ったときよりも五つの資料活用能力が相互に関連し合いながら、授業が展開していくことが効果をもたらし、資料活用能力全体の育成を図ることができた。

気付く過程において、身近な経済活動である企業の形態や目的、社会的責任を調べるために、資料として折り込み広告を収集・選択し、課題解決に適した資料を読み取る活動を取り入れたことによって、資料取捨選択能力と資料読み取り能力の育成を図ることができた。

思考する過程において、取捨選択し、読み取った資料から、商品の価格の決め方を考察するために、資料を分析する活動を行ったことによって、企業の経済活動をシミュレーションするための資料分析能力の育成を図ることができた。

表現する過程において、社会的事象に関する資料分析をした結果を処理し、身近な経済活動を多面的・多角的に考察した結果をベンチャー企業の起業という形でシミュレーションする活動を取り入れたことによって、資料活用能力の育成を図ることができた。

シミュレーションするに当たって、身近にある様々な資料を活用することが有効と考え、コンビニエンスストアや本校に隣接する三洋電機を活用したことは有効であったが、折り込み広告をふだんの生活で、あまり目にしていない生徒がいたり、スーパーマーケットでの買い物経験が少ない生徒がいたりとして生徒たちの生活体験に違いがあり、生徒の実態に即したさらなる工夫の必要性が課題として残った。

#### <参考文献>

- ・ゲリーE・クレイトン 著 『アメリカの高校生が学ぶ経済学』 WAVE出版(2005)
- ・池野 範男 編著 『"資本主義経済"をめぐる論点・争点と授業づくり』 明治図書(2005)  
(担当指導主事 飯沼 良夫)

